

私たちの活動や意見を仲間で共有します。会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

# 土浦平和の会ニュース

2018年8月15日 第318号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//heiwatutira.web.fc2.com/

## 夏の平和行事

残暑お見舞い申し上げます



## 2018原爆と人間展 (8/7~12) に 1,375人 ピースデー (8/11) に 120人

「2018原爆と人間展」と「ピースデー」の全プログラムが成功裏に終了しました。

写真展には6日間で1,375人が来場、小さな子供連れのお母さん、じーっと見入る老人。被爆者署名などに応じ、折り鶴に協力してくれる人も。

### 「広島で学んだこと生かしたい」 中学生平和使節団報告に感動

メインイベントの「ピースデー」(8/11)には延べ120人が参加。大西陽子さんの朗読「あきらめるな(核兵器の終わりの始まりに)」はノーベル平和賞を受賞した国際NGOのICAN、サー口節子さんの講演の一部を含む胸に迫る内容でした。

午前中はドキュメンタリー映画「封印された原爆報告書」、午後はアニメ映画「この世界の片隅に」が上映されました。

茂木貞夫氏(茨城県被爆者協議会副会長)が広島の被爆者としての生々しい体験を語りました。



来場の男性から寄せられた2千羽以上の折り鶴。毎日こつこつ折り続け、会場に届けてくれました。

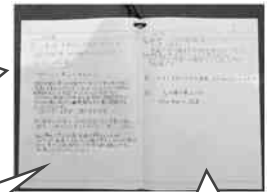
土浦市が毎年市内の全中学校から広島に派遣している土浦市平和使節団

のうち9名が参加し、被爆地広島を視察した前後の心の変化、平和への熱い思い、将来への希望など語りました。

### ■ 写真展来場者感想ノートより

来場者感想ノート

原爆。それは人を死にいたらしめあるいは重い後いしょうを残していく。良いことは一つもないのに(小学6年)



戦争というものは地球にあってはいけません。そう思いました。原爆の被爆者の気持ちが良くわかりました。

人間はなんと愚かな生物だろう

被爆者の写真とその後の写真を見て、言葉にできない・・・絶対このようなことがあってはならない・・・悲しい、くやしい・・・



中学生平和使節団からの報告は感動的でした。

## ふたたび被爆者をつくらないために

きどすえいち

県原水協学校特別講演 **木戸季市** 氏  
(日本被爆者団体協議会事務局長)

**9月2日(日)** 午後1時30分～午後4時40分  
県南生涯学習センター中講座室(土浦市役所5階)

木戸講演の他、世界大会参加者報告と平和行進の感想・報告、意見交換など  
主催：原水爆禁止茨城県協議会 共催：土浦平和行進実行委員会など



安倍内閣は第3次内閣などと喜んで良いのだろうか。国連に欠席など何を云っているのだろうか。ついこの間まで、理事国になると金をつぎ込んだのではないの？ それなのに核廃絶に不参加とは。本当に信用できない。アメリカの核の傘の下と核廃絶は全く違う問題ではないのでしょうか。

作らず、持たず、持ち込ませず・・・

# 安倍9条改憲NO！3000万人署名 憲法共同センターの統一行動すすむ 9条の会のスタンディング40回に到達

憲法共同センターを中心に取り組んでいる安倍9条改憲NO！3000万人署名の土浦地域での運動が進んでいます。今年に入ってから土浦の統一行動（駅頭宣伝や地域署名）は22回になりました。

また、土浦9条の会の早朝スタンディング（木田余地域）は実に40回を数えています。地道な努力に頭の下がる思いです。

憲法共同センター全国運営委員会

## この秋の大運動に向け「全国へのアピール」

憲法共同センター運営委員会 は、「安倍政



土浦駅頭宣伝行動に参加された憲法共同センター各団体のみなさん

権は9条改憲発議をあきらめたわけではありません。来年の統一地方選挙や参議院選挙などの政治日程を見据えると、秋に9条改憲発議にひた走る危険性をはらんでいます。」として、この秋さらなる大運動をすすめたいとし、10～11月を「安倍政権退陣、9条改憲阻止、3000万人署名達成目指す推進月間」として設定しました。

「権威への追従」が日本を危険な道に導くと、戦史・紛争史研究家の山崎雅弘さんが平和新聞で訴えています。その要旨を紹介します。

1937年盧溝橋事件の翌年、帝国議会において「黙れ事件」が起こった。「国家総動員法」の審議中の出来事であった。陸軍省からの説明員として出席していた佐藤賢了中佐が議員に対しておこなった暴言でした。軍人こそが国益の体現者という思い込みが根底にあり、当時の軍人の間にそういう価値観がひろがっていた。

### 平和への思い

井上仁志(土浦平和の会理事)

### なぜ日本軍は暴走したのか

現在の自衛隊の中にもそれに似た価値観から「安保法制」に反対してきた野党議員に対して「国民の敵」という暴言が生まれたとすれば非常に危険である。戦前・戦中の「国体思想」への回帰を願う日本会議のような勢力と価値観を共有する動きがあることは問題である。

小野寺防衛大臣が「彼も当然思うこと

はあると思う」と発言したということはこのような思考を容認するというメッセージを自衛官に与えることになってしまう。

戦前の「国体明徴運動」によって天皇の権威が絶対的なものとして位置づけられ、天皇に仕える軍人の地位も向上して軍部暴走の契機を作ってしまった。国民の多数も権威に追従することでこれを止めることができなかった。ドイツのイーリッヒ・フロムは「自由からの逃走」の中で、ワイマール憲法下で人々が自らナチスに身をゆだねる道を選んだのは、権威への服従がある種の魅力を備えているからだと書いている。安倍首相を守るために無限の奉仕をしようとする高級官僚の姿を見ていると戦前・戦中の権威主義と本質的に変わらないのではないかと思える。いま同じ過ちを繰り返さないために権威主義にどう向き合うかが日本社会の最大の課題だ。

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 「平和新聞」（毎月5、15、25日発行）月額400円

